

16

143

宇  
邨  
為  
此  
序

六



16  
143

子以爲行也  
六編



要  
於



六五  
2. 6. 27  
丙寅





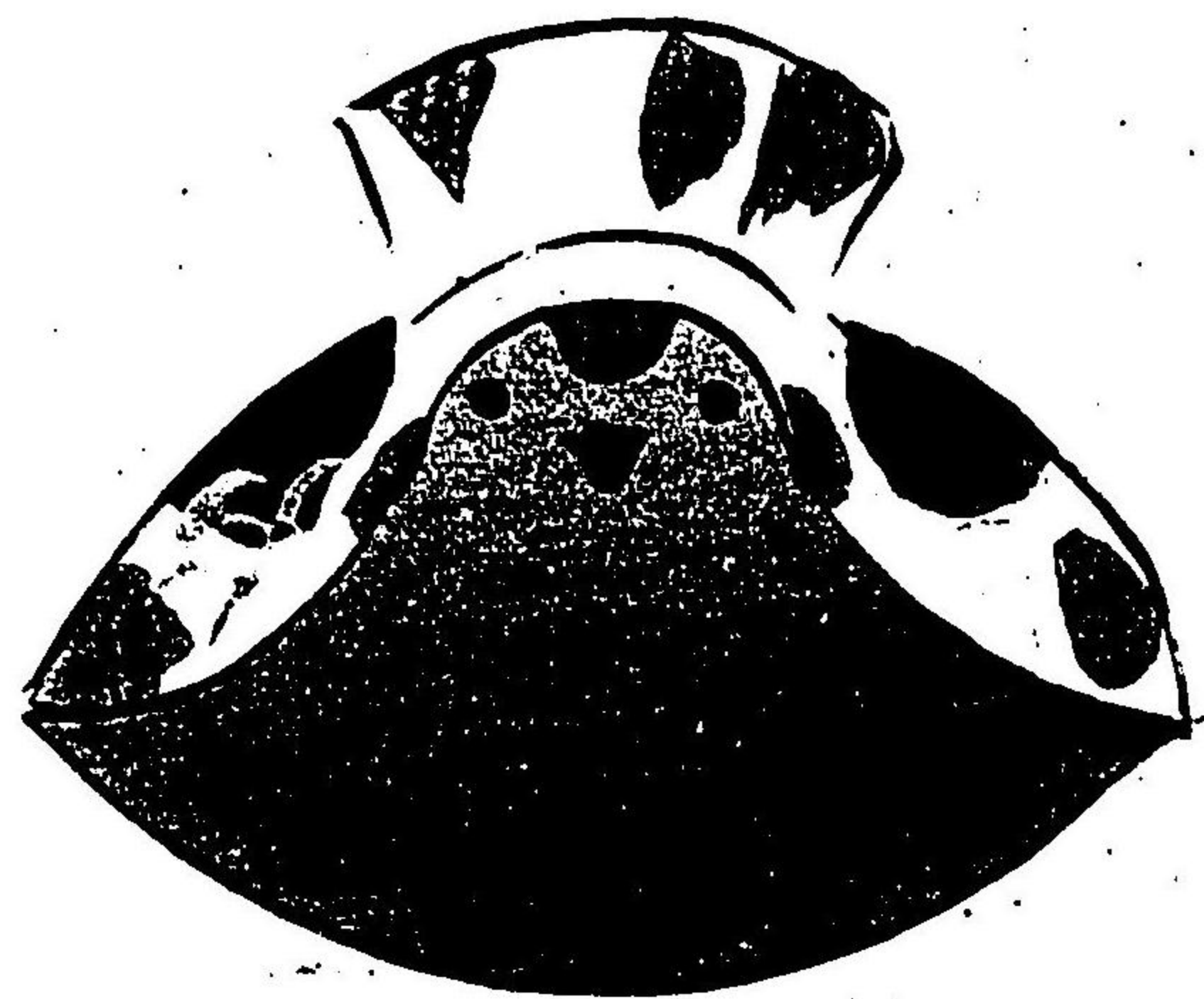
澗  
美

蘇田美仙題

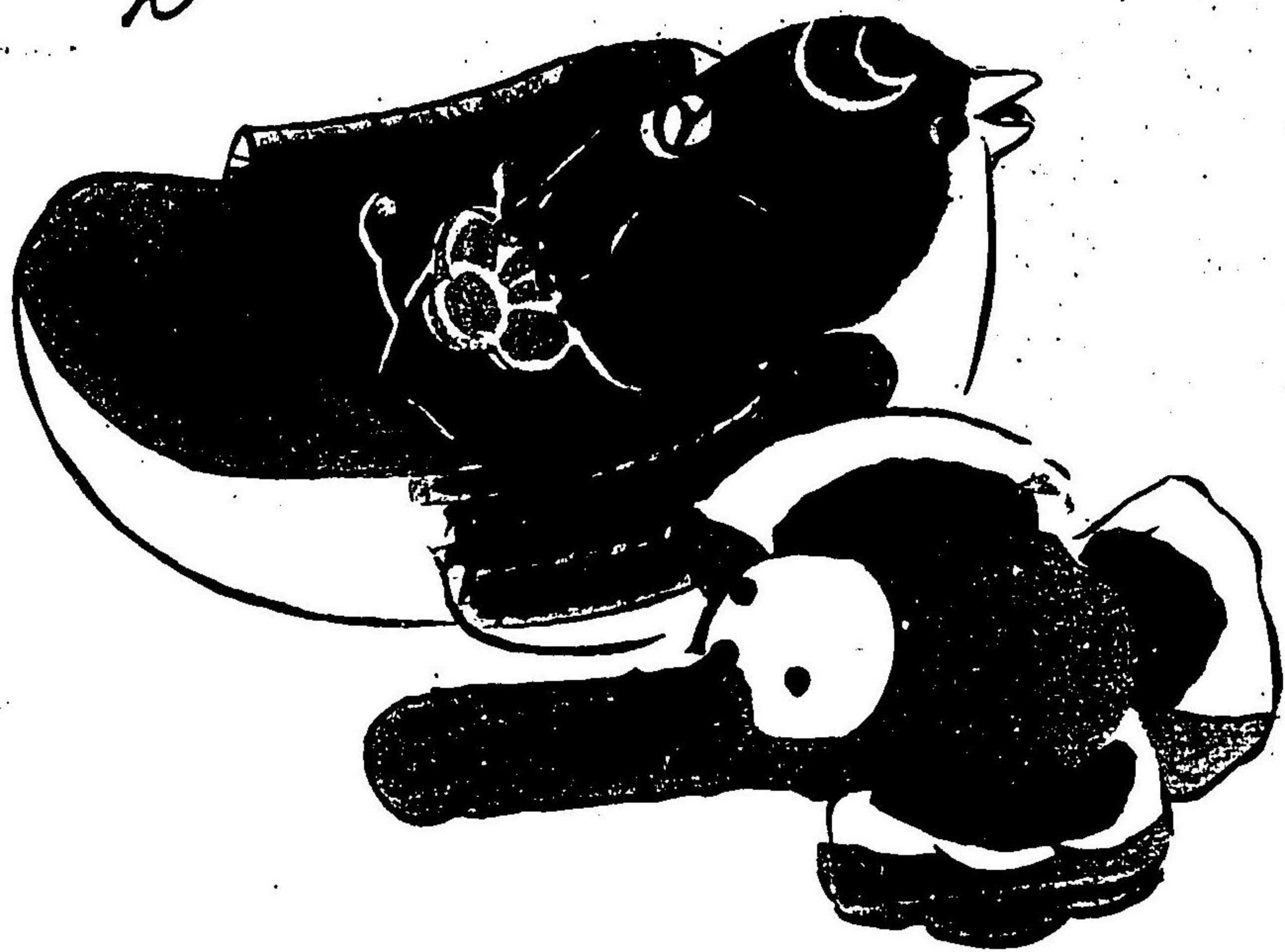




由及玩々  
活物家のきん



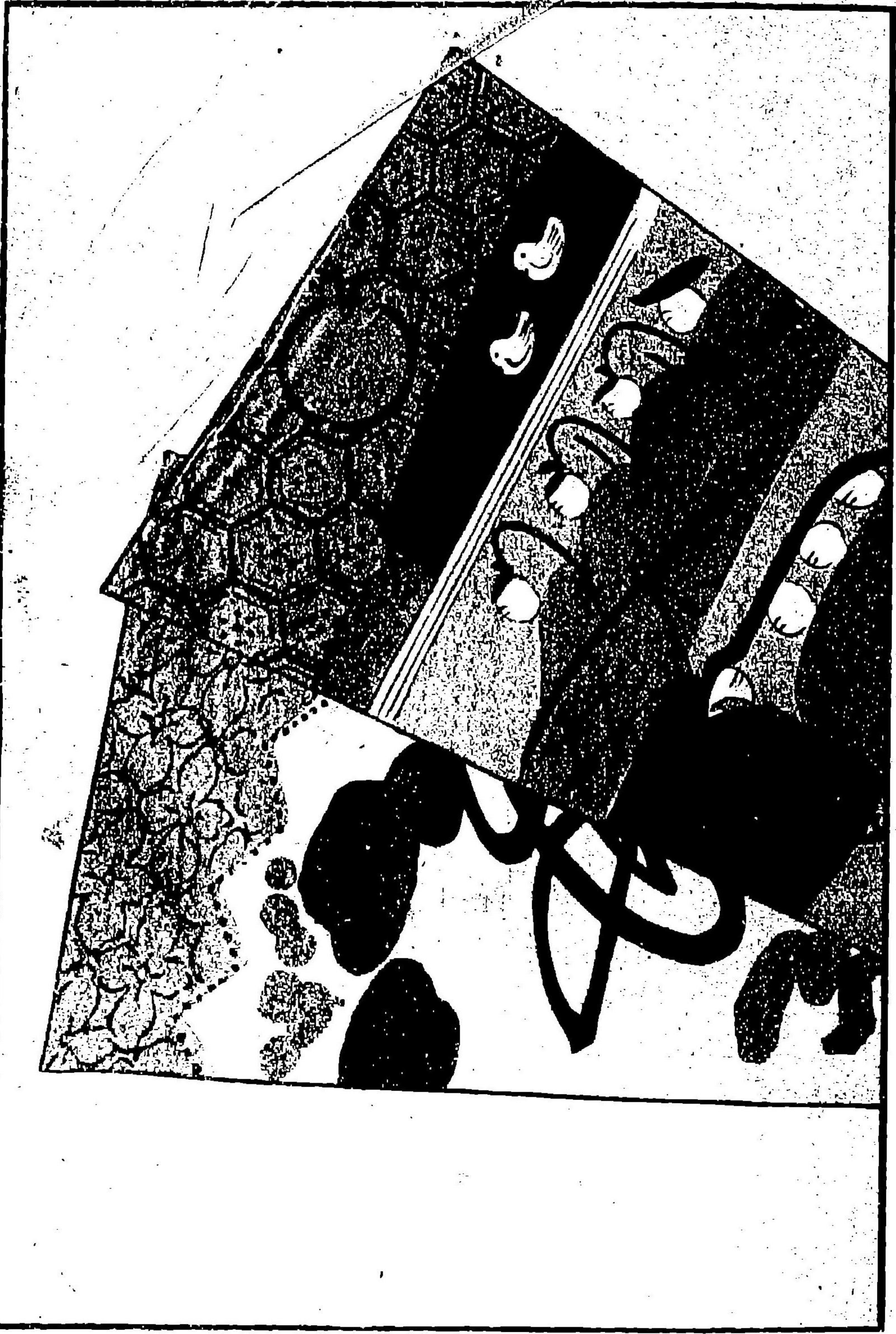
京都五條板子の  
除名を



江戸時代の子供の  
きん

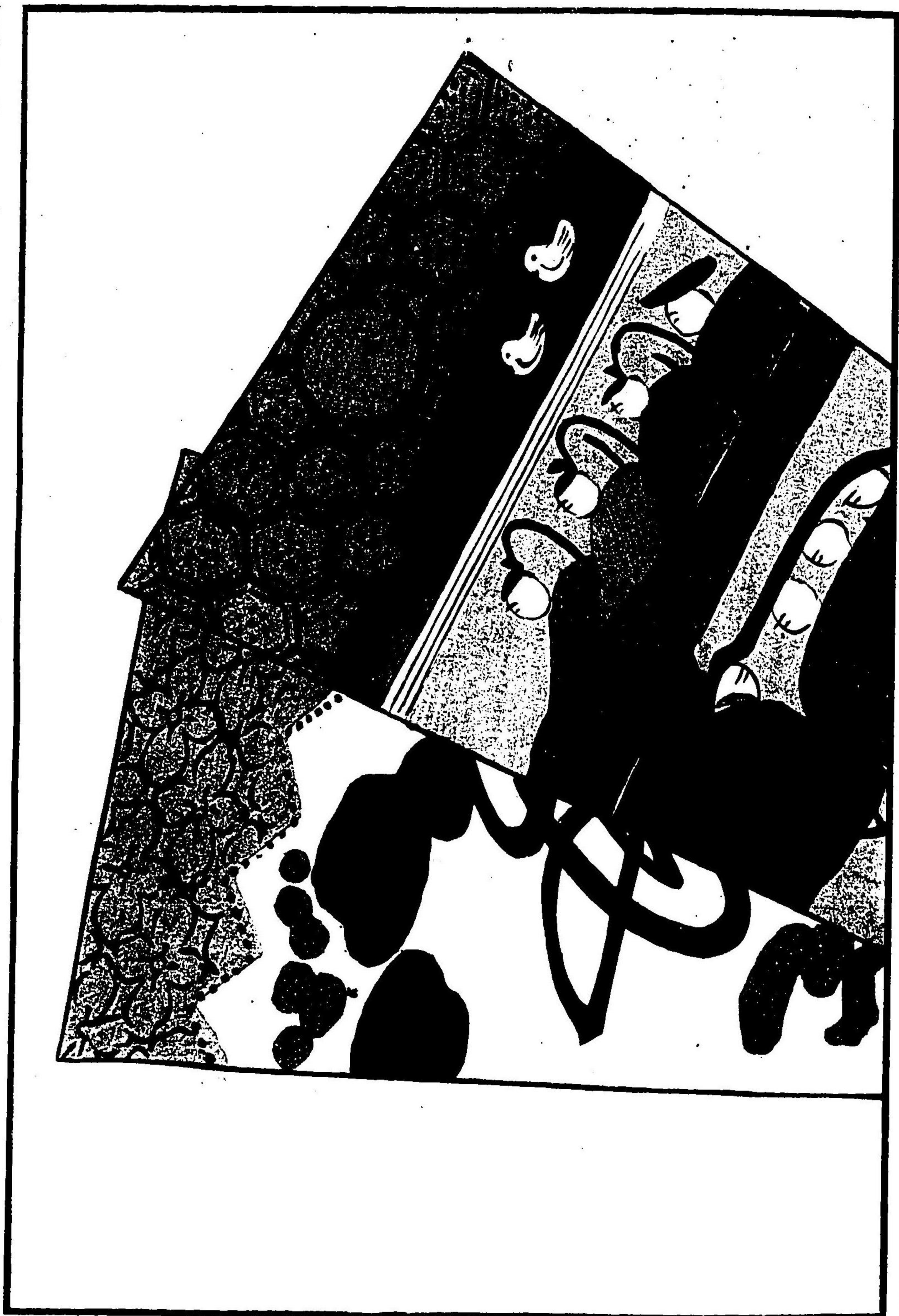






江戸邊在製  
左義長羽子板





江戸通文書  
大義長羽子板





奈良養鹿三種

六〇二



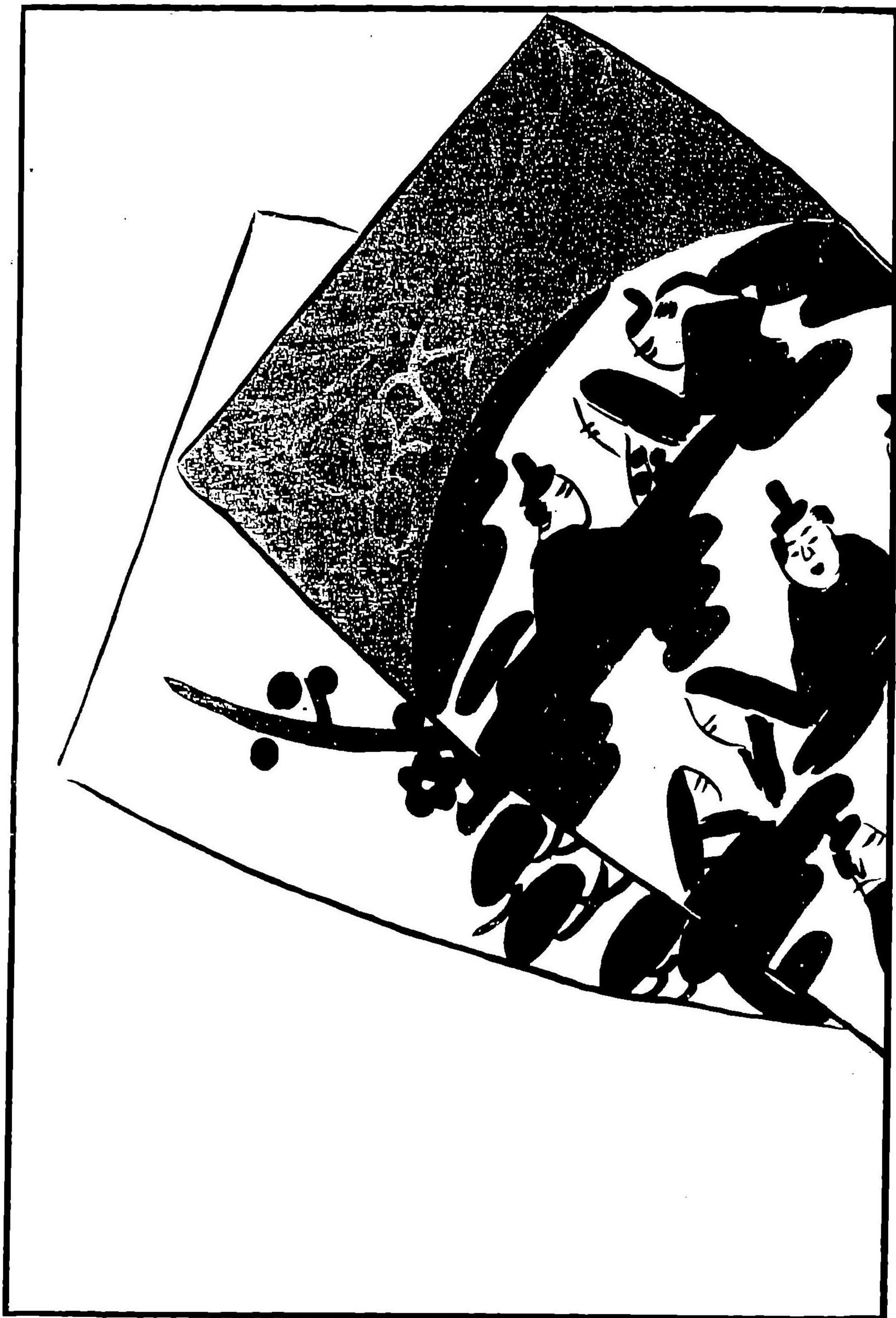
江戸時代の子供





出羽神田のおま板





出羽神田の羽子板





江戸の真紅の袴  
子も舞臺に  
入



大坂産志のり  
奴



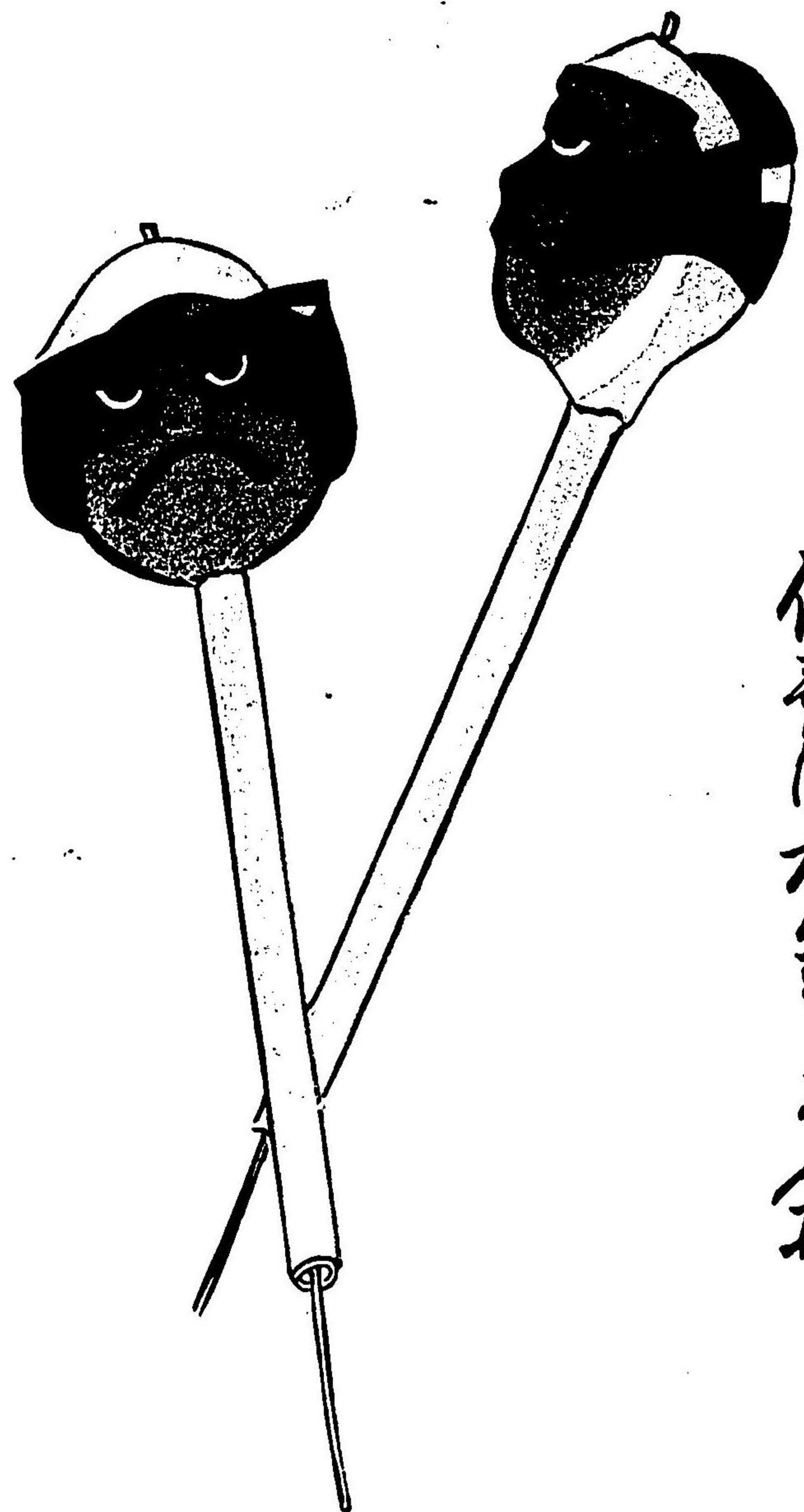


澁  
妙  
高  
松  
の  
花  
子  
繁  
お  
ぼ  
ん  
人  
取

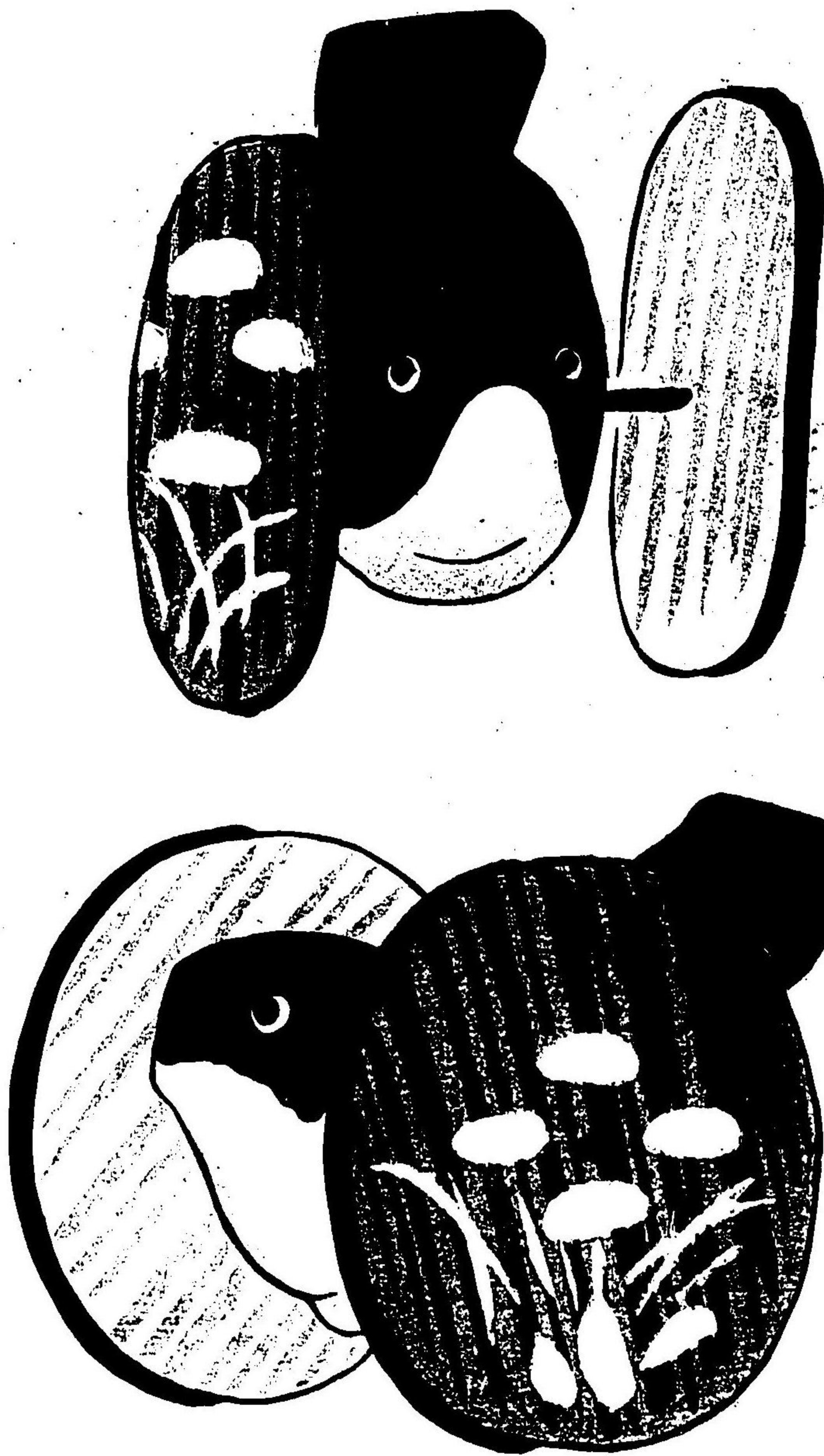


大  
坂  
産  
高  
松  
の  
花  
子  
繁  
お  
ぼ  
ん  
人  
取





伊豫國松山浮世屋人形



大坂新橋の  
毎月の浮世屋人形



奈良人形  
高砂尉嬢





奈良人形  
高砂尉嬢



六二



南於招提寺平基巡撫和者  
とて之入身施り之取とて  
其申敷情ありは過よとて  
以後毎日の当り毎事とて  
之を以て諸事とて施り  
まこととありあり



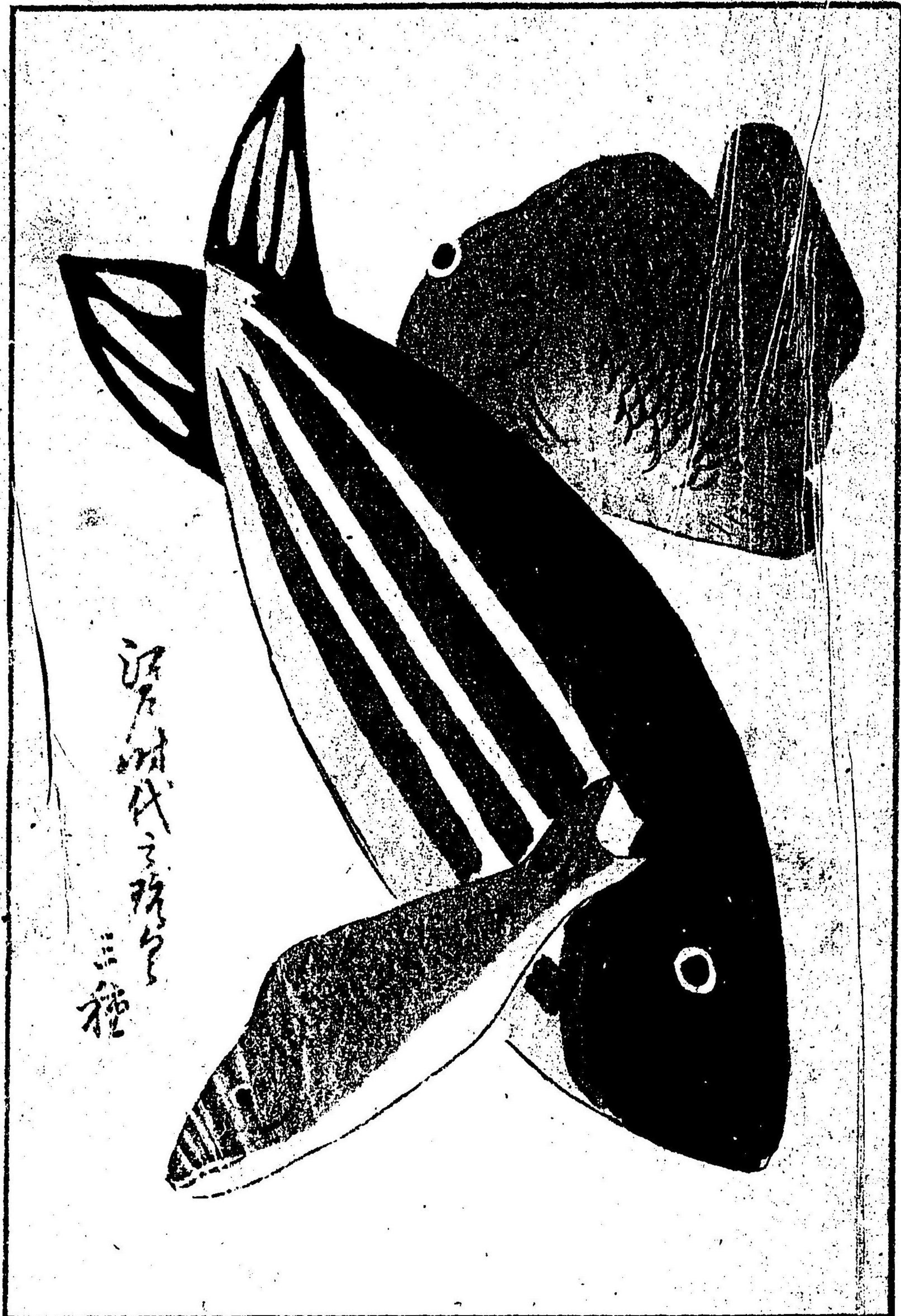


南於招提寺并基巡真和也  
 上より在自身施り之教を  
 其申救済あり不道よまて  
 紅後良圓の當日毎事をも  
 之よりして諸もみけを施り  
 其まことありあり



奈良人形  
 高砂尉姫





江戸時代之物  
三種



美濃岡大蛇の尻を  
輪押(毎年五月廿日)  
お祭りの囃子  
を賑南久

六  
七





江戸時代之魚々々  
三種



美濃國大垣の物々  
鯨押(毎身五月方)  
魚の禮のゆゑに  
を讃ふ



大正良平向山  
八幡宮社  
奉納古製  
繪馬額



羽州新子之神





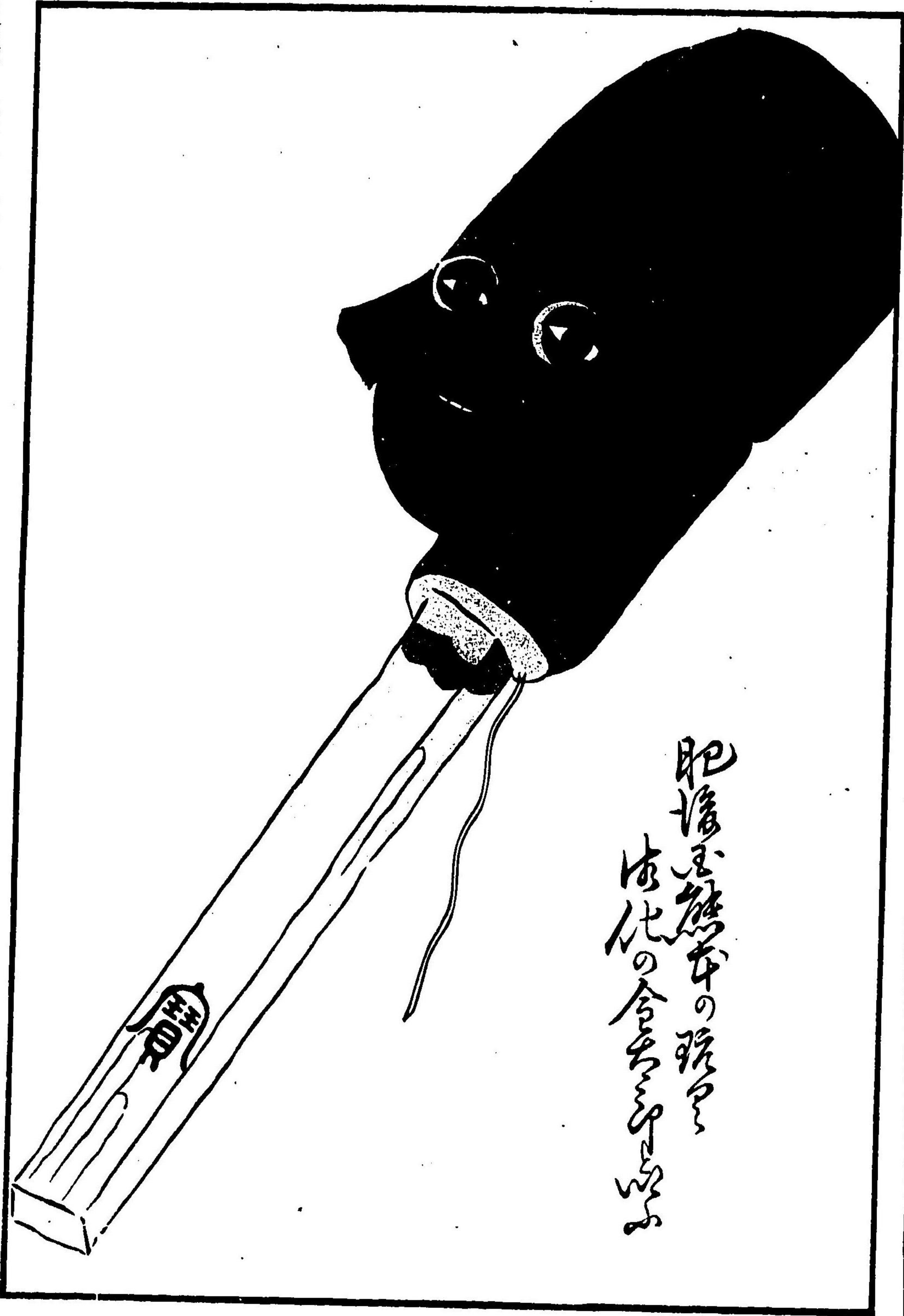
大正良平向山  
の勝宮社  
奉納古製  
繪馬額



羽少將の神







肥後玉熊の  
 化の合

六九



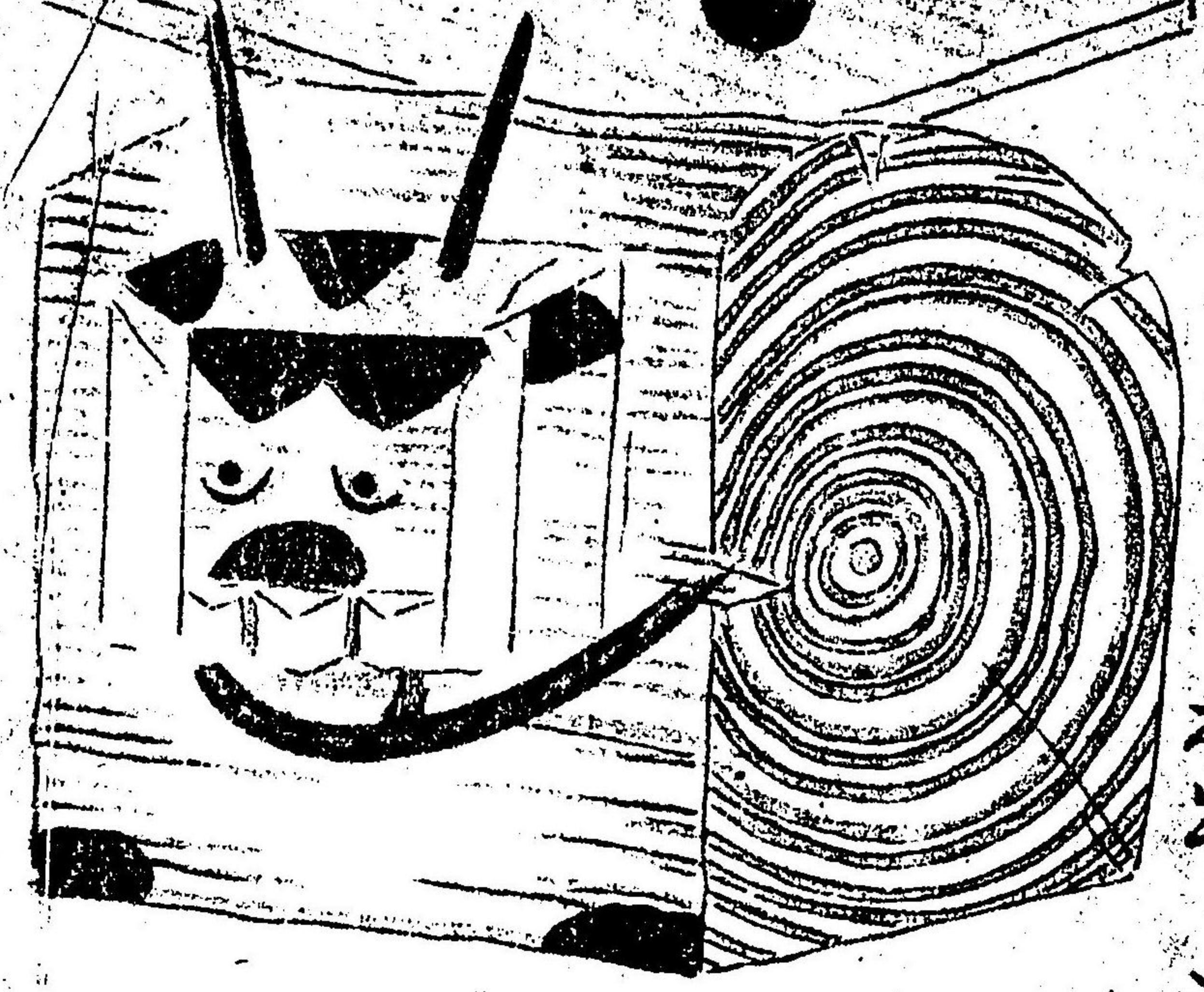
梅  
 新  
 種



國分牛の



八丈島中の御牛

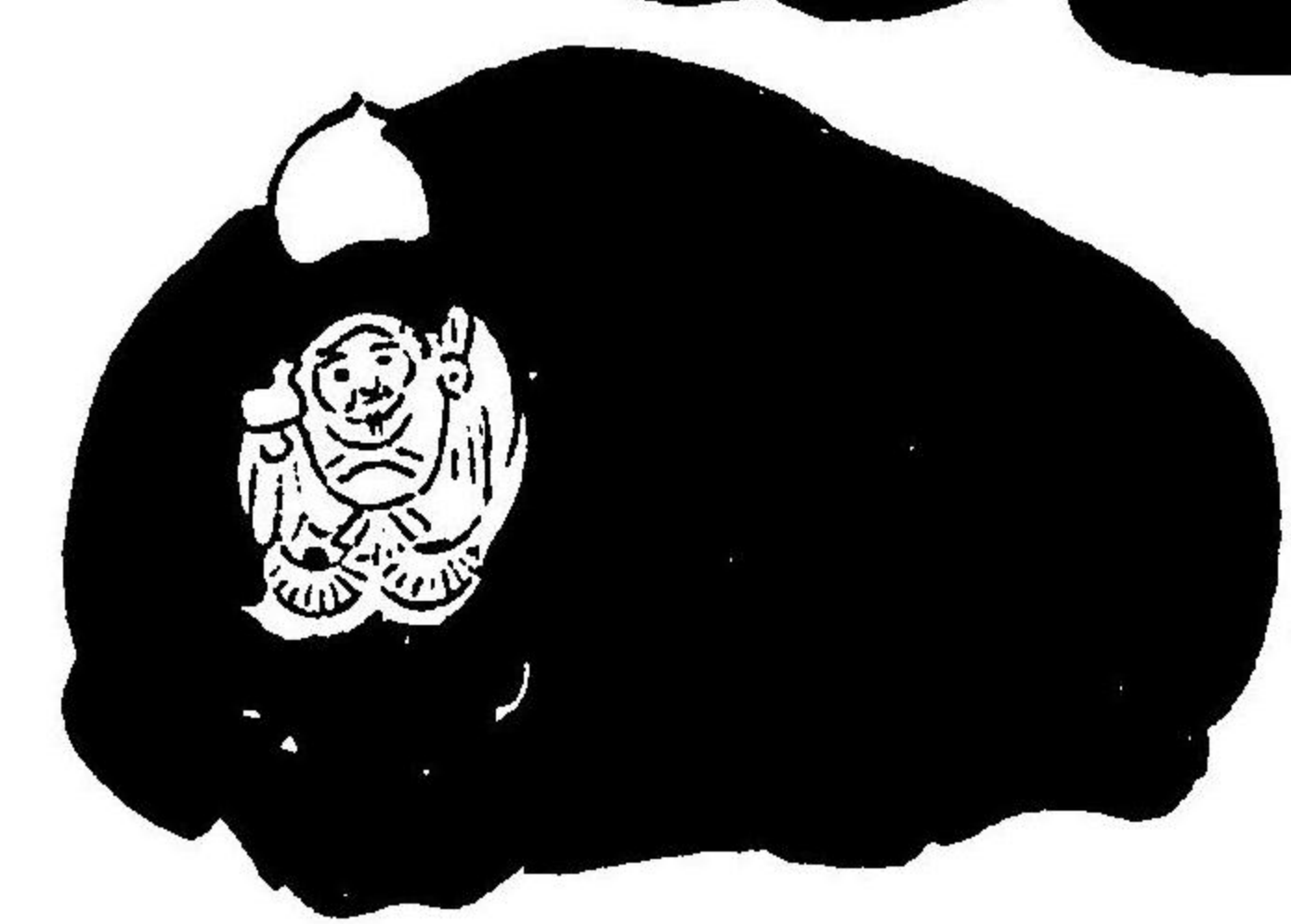


本牛

和歌山神の  
駒

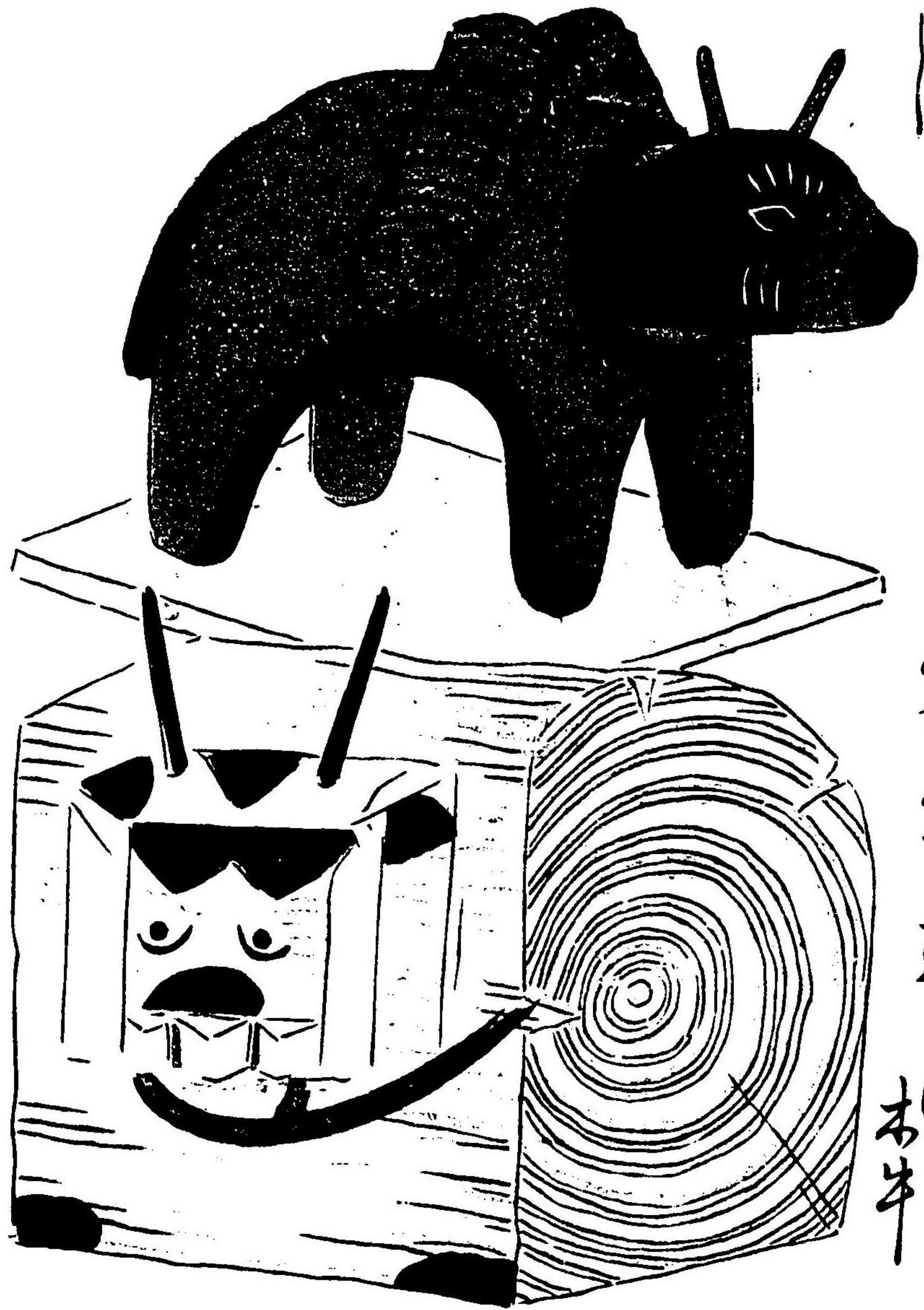


和歌山神の  
牛





國方三木の



八丈島中の御まき  
本牛

和泉牛神の  
本



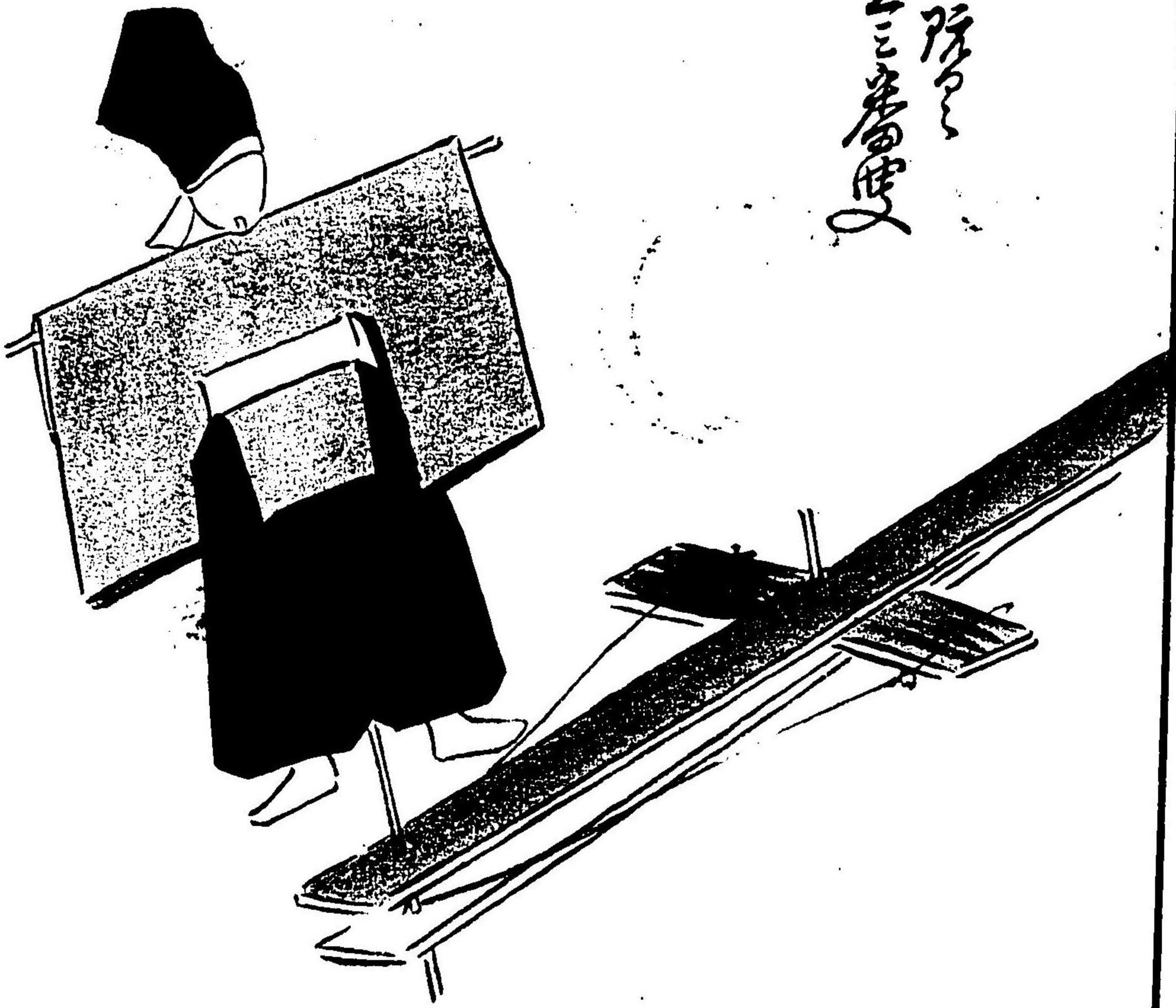
和泉國牛神の  
本



角子金汁の張子  
張子赤牛の赤牛



紀伊國若山市の張子  
張子赤牛







江戸時代の装束  
三種

肥後岡山産温涼場  
遊具之布衣人形一種







肥後國山鹿温泉場  
遊園地の人形三種







土産の海産物

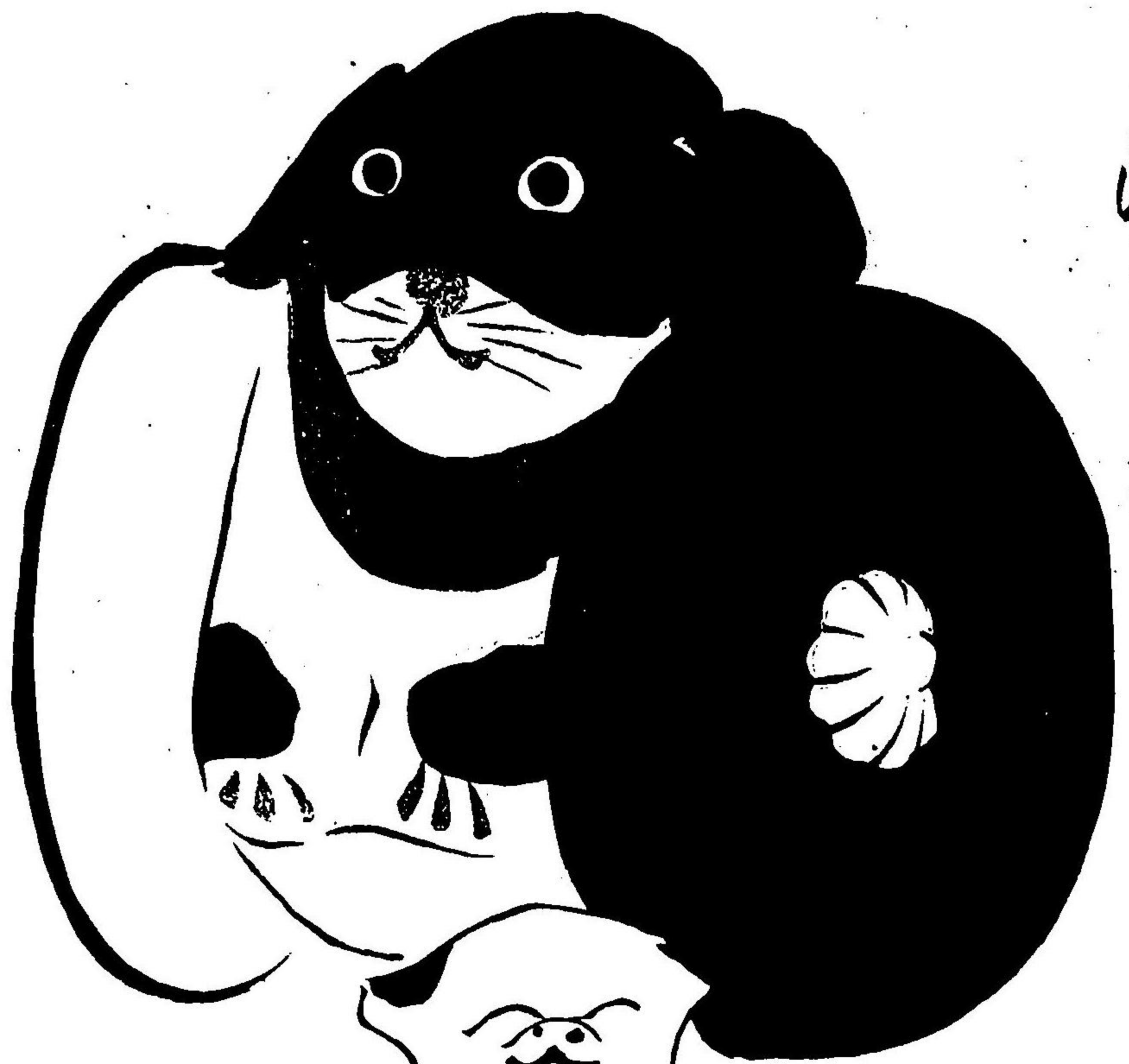
駿河静の産物  
土産の宝



江戸時代  
王子稲子の土産物



幸か不幸か大車



駿河静るる

土蔵の人



江戸時代武家園

王子稲子の書斎





岩代國飯坂壺子  
 壺子と木入形壺子



江戸時代の犬張り三種



仙臺堤防の天神



裁若福井の  
伊弉種





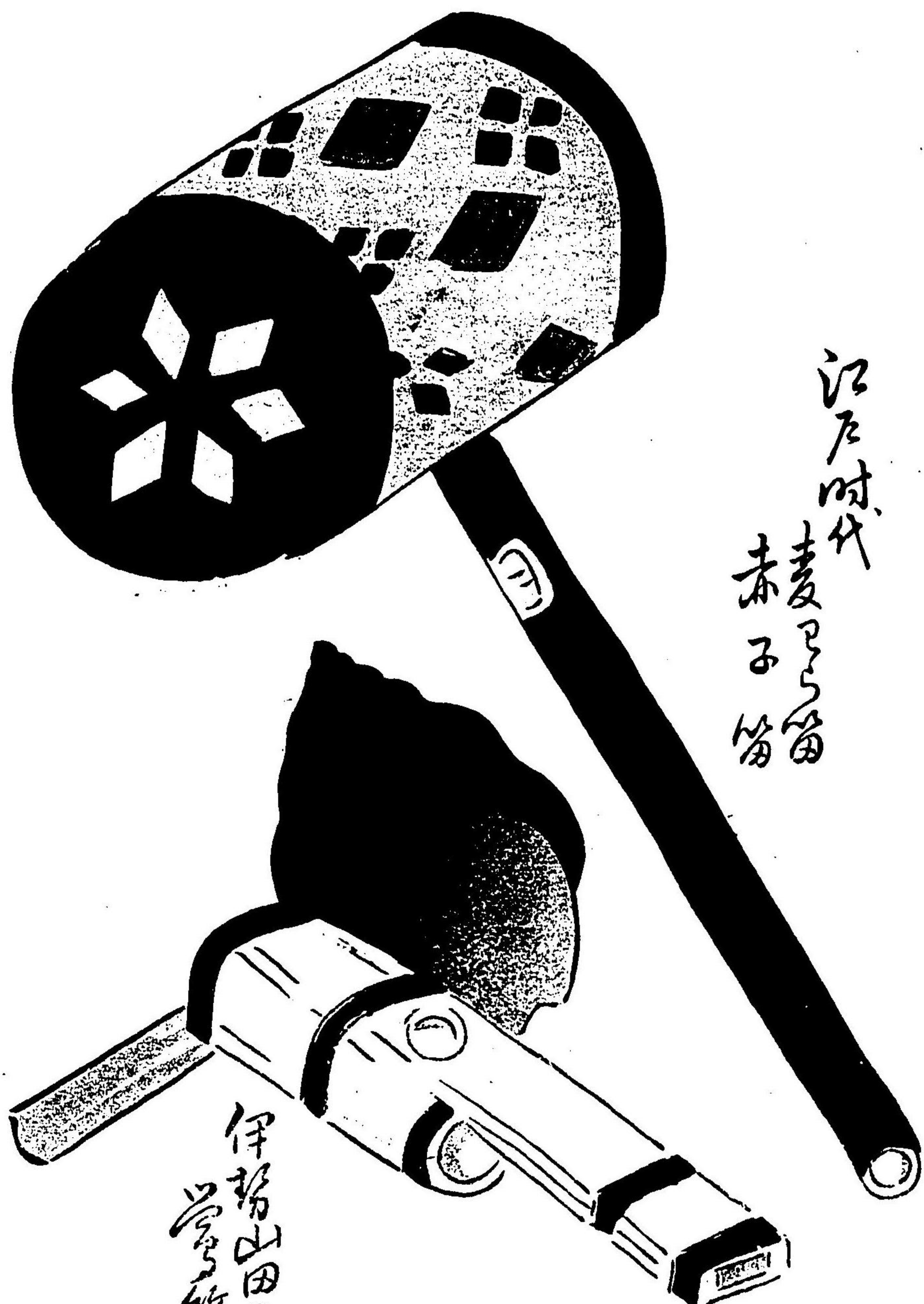
仙名堤鏡の天神



裁若福井の  
伊弉







江戸時代  
赤子笛

伊勢山田の  
竹田



鹿児島在國分八幡宮の  
神魁





桃屋  
新子  
早



大  
喜  
良  
人  
形  
福  
祿  
壽





瓶後小柳月堂  
維子車



奈良翁福源壽

ナニ





江戸時代の様子を  
猪



江戸時代の様子を  
猪五種

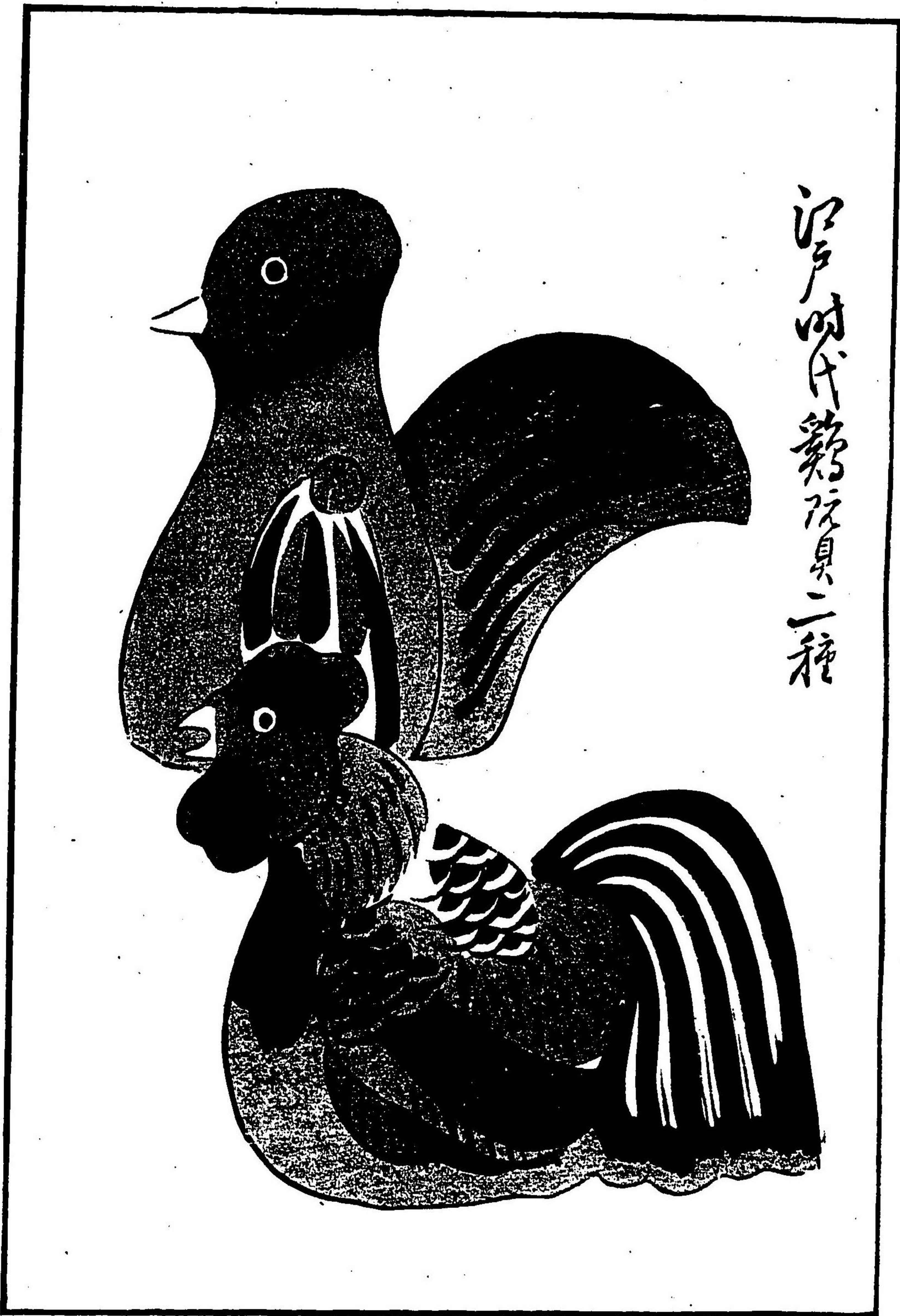




加勢守正  
 加勢守正  
 人形

武時越谷人形

唐内新三  
 土偶



江戸時代鶏玩具二種

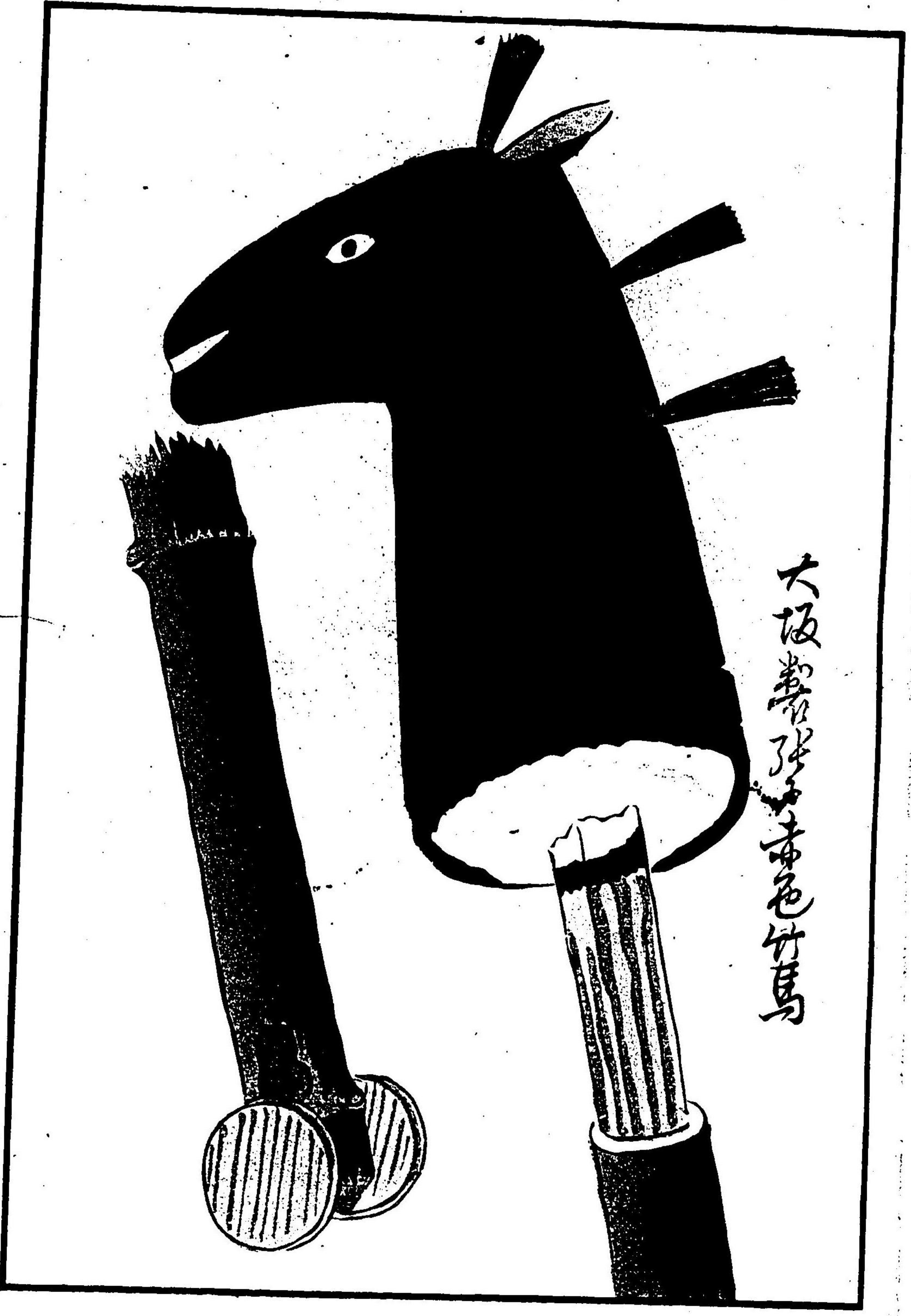






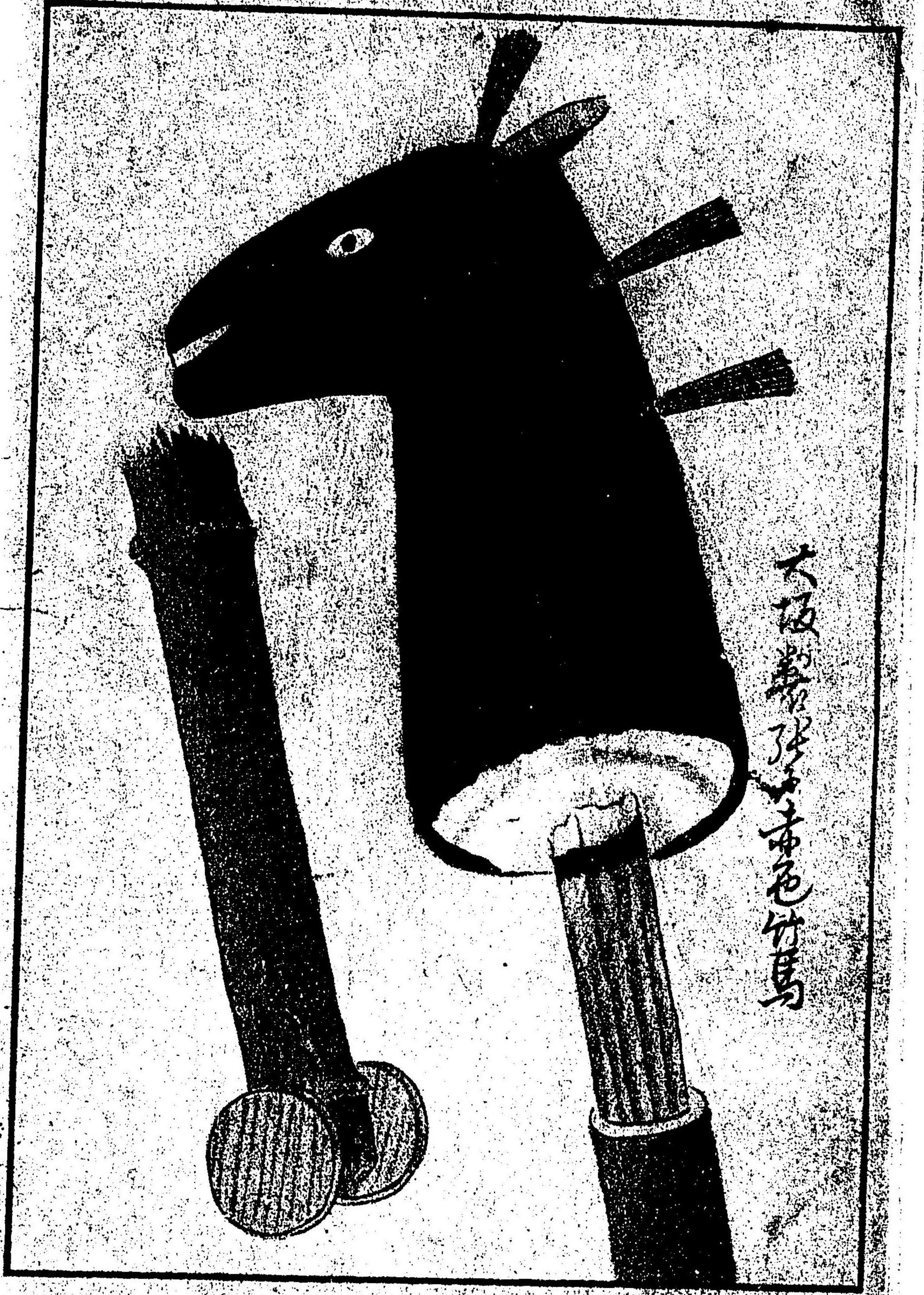


江戸時代の子供  
信田の馬の頭をいじめる



大坂新町の子供  
馬の頭をいじめる









江戸時代の  
狸と兎三種

かきまじりの  
くまのぼん













肥後國熊手坊獅子頭



河内徳島坊獅子頭







大坂  
子の子



陸  
子の子

浦  
子の子



六  
子





序

平のうちの友の初編より五編まで出版を  
 経たすも一向の功の未だ編の善悪の年料に  
 編者大抵下りの心算なれうちの友の友の  
 之も一畢群れぬ思ひに天未だ予と  
 推念之を幸ふ前より花頃幾多の  
 既を親むる者なりあまの守の初編のそ尾  
 能く出版する事なれうちの友の友の  
 編者の善悪の心算の如く十編の末まで一



宮行す... 卷... 難... 海... 既...  
今... 海... 宮... 既... 海...  
... 海... 回... 聖... 既... 海...  
... 既... 聖... 既... 海...  
... 既... 聖... 既... 海...  
... 既... 聖... 既... 海...

清水書院





16  
143

著者權所

大正二年  
六月廿  
印刷發行

著者東京市神田區旅籠町  
一丁目七番地○清水晴風○  
發行兼印刷者京都市上京區  
寺町通押小路北入十九番  
○書肆芸州堂○山田直三





16  
143



